

第2章 野生動物の現況

第1節 哺乳類

本県に生息する野生の哺乳類は、およそ36種が記録されています。イノシシ、タヌキ、アナグマ、ニホンザル、ニホンジカ、キツネなどはかなり広い範囲に分布しています。本県に生息する哺乳類のうち、ニホンカモシカは国の特別天然記念物に、ヤマネは天然記念物に指定されています。

また、県が平成12年3月に発行した「宮崎県版レッドデータブック」には、絶滅のおそれのある種として6種、それ以外の種として11種が掲載されています。

掲載された絶滅のおそれのある種の内訳は、絶滅危惧 B類としてヒメヒミズ等3種、絶滅危惧類としてホンドモモンガ等3種です。

第2節 鳥類

本県内で生息又は記録のある鳥類は336種で、このうち、263種(78%)は渡り鳥とされています。また、鈴木・中島の論文(鈴木素直・中島義人「宮崎の野鳥」)には、本県内の野鳥62科319種の目録が示されています。

1981年から1985年にかけて、夏期と冬期に県北・県中・県南において本県が実施した調査では、104種の野鳥が観察されており、このうち、個体数が非常に多かったのはヒヨドリ、ホオジロ、ウグイスなどで、その他ではコジュケイ、キジバト、コゲラ、ツバメ等が多く観察されています。

前述の本県の野鳥目録の中で、「宮崎県版レッドデータブック」には、絶滅のおそれのある種として23種、それ以外の種34種が掲載されています。

掲載された絶滅のおそれのある種の内訳は、絶滅危惧 A類としてクロツラヘラサギ等3種、絶滅危惧 B類としてツクシガモ等7種、絶滅危惧類としてミゾゴイ等13種です。

第3節 両生類・は虫類

本県内でこれまでに観察・記録されている両生類は、サンショウウオ類6種、イモリ類1種、カエル類12種、は虫類は、カメ類8種、トカゲ・ヘビ類15種です。

この中で、サンショウウオについては、ブチサンショウウオが県内の最優占種で、山間部において生息しているものは大方本種です。また、カメ類は、海産のカメ類が多く記録されており、特に、宮崎市周辺海岸はアカウミガメの産卵地として著名で、佐土原町、新富町、高鍋町、延岡市、日南市の海岸を含めて県の天然記念物に指定されています。

この中で、「宮崎県版レッドデータブック」には、絶滅のおそれのある種として7種、それ以外の種として9種が掲載されています。

掲載された絶滅のおそれのある種の内訳は、絶滅危惧 B類としてオオイタサンショウウオ等3種、絶滅危惧類としてアオウミガメ等の4種です。

第4節 汽水・淡水魚類

本県で観察・記録された汽水・淡水魚類は54種です。

この中で、「宮崎県版レッドデータブック」には、絶滅のおそれのある種として4種、それ以外

の種として6種が掲載されています。

掲載された絶滅のおそれのある種の内訳は、絶滅危惧 A類としてアリアケギバチの1種、絶滅危惧 類としてメダカ等の3種です。

第5節 昆虫類

環境省は、1978年の「第2回自然環境保全基礎調査動物調査」で、「指標昆虫」10種と「特定昆虫」90種の本県内の生息状況を調査しています。その結果、本県内で指標昆虫7種（ムカシトンボ、ムカシヤンマ、ハッチョウトンボ、タガメ、ハルゼミ、オオムラサキ、ゲンジボタル）及び特定昆虫88種の生息が確認されています。（オオハラビロトンボとスジボソヤマキチョウの2種は生息なし。）

また、「宮崎県版レッドデータブック」には、絶滅のおそれのある種として55種、それ以外の種として242種が掲載されています。

掲載された絶滅のおそれのある種の内訳は、絶滅危惧 A類としてスジボソヤマキチョウ等10種、絶滅危惧 B類としてグンバイトンボ等9種、絶滅危惧 類としてヨドシロヘリハンミョウ等36種です。